



## 環境特集に寄せて

執行役員常務

五十嵐 一浩

持続可能な社会の実現を目指して、2015年に世界共通の二つの目標が合意され、国際社会は新たな転換期を迎えています。一つ目の目標「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」は、経済・社会・環境の三つの側面からの課題を包括的に含み、国際社会が2030年までの達成を目指していくものです。貧困や飢餓の撲滅、持続可能なまちづくり、気候変動対策、地球環境保護など17の目標を掲げ、あらゆる関係者が連携して取り組むことが重要とされています。二つ目の目標「パリ協定」は、2020年度以降の温暖化対策の枠組みとして、2016年11月に発効されました。世界の気候変動対策は、事実上「脱炭素化」に向けて動き出しています。これらの目標の実現に向けて、政府だけでなく企業による貢献が社会から求められています。こうした中、ICTは産業の枠を越えた「共創」を産み出し、環境・社会課題の解決に大きく貢献できると考えています。

今、モビリティ、ロジスティクス、ものづくり、まちづくりなどの様々な分野で、製品やサービス、プロセスにデジタル技術を取り入れ、新たな顧客価値を創造しビジネスを変革する「デジタル革新」が進んでいます。従来から、ICTはエネルギー利用効率や生産効率の改善に貢献してきました。今後は、モノやサービスがデジタルでつながることで、ICTは社会システム全体のエネルギーや資源の最適利用の実現、自然災害や都市化により起こり得る新たな社会課題の解決にも貢献できるようになります。富士通のビジョンは、テクノロジーの力でより安全で豊かな持続可能な社会「ヒューマンセントリック・インテリジェントソサエティ」を実現していくことです。このビジョンの実現を追求し、お客様やパートナーとともにビジネスや社会の大きな価値を作り出すことに全力を注ぎます。

富士通グループでは、2016年度から「第8期富士通グループ環境行動計画」をスタートさせました。これは第7期環境行動計画で掲げた、事業を通じた「お客様・社会への貢献」と「自らの事業活動の環境負荷低減」の二軸のアプローチを、SDGsやパリ協定を踏まえて更に深化させたものです。社会の持続可能な発展にICTを活用したサービスで貢献すること、また国際的に合意された温室効果ガス排出量削減目標に向かって、バリューチェーン全体で取り組むことを推進しています。世界をリードするICT企業として、環境への取り組みを全てのビジネスに関わる共通基盤と捉えています。富士通グループは、今後も地球規模の課題解決を見据え、お客様との新しいつながりを通じ、デジタル革新を創出し、持続可能な社会に貢献していきます。

本特集では、富士通グループの環境戦略、持続可能な社会の実現に貢献するソリューションや技術・研究開発をはじめ、事業所、データセンター、バリューチェーンにおける国内外の取り組みをご紹介します。何卒ご高覧いただくとともに、今後とも引き続きご支援・ご指導を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。